

教員・保育士の養成に係る教育の質の向上に関する取り組み

教職課程の全学的組織の中核を担う教職支援センターのもとで、人間健康学部人間健康学科の中高教職課程部会と、教育学部子ども発達学科の幼小教職課程・保育士養成部会（以下、「幼小保課程部会」という）で各種教育活動の検討を行っている。その検討をもとに、教職支援センター運営委員会で審議を行い、教員・保育士養成教育の質を向上させるために、以下のように4つの取り組みを中心に行っている。

1. 「教職実践演習」の取り組み

「教職実践演習」は教員養成・免許制度の一層の充実を提起した中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（2006年7月11日）のなかで、その開設が要望されたもので、2013年度より教職課程の新必修科目として開始された。この新しい演習科目の目標は、①4年間の教職課程を総括する、②理論と実践を総合的に把握する、③大学と教育現場の協働体制を推進する、の三つである。そこで本学では中高と幼小の教職課程ごとに、以下のように取り組んでいる。

〔中高教職課程〕

目標①②③の事項を達成するために、履修カルテを基にこれまでの教職課程の学修の振り返りを行い、現職教員であるゲストスピーカーの講話・質疑応答、学習指導案・学級経営案の作成、模擬授業、学校現場の見学・調査、事例研究、役割演技（ロールプレイング）を行う等の体験的な学習や集団討議を行っている。これらの取り組みを通じて、学校現場が抱える諸課題やその対応策、特に児童生徒への対応について、理解を深めることができている。特に、ゲストスピーカーは卒業生を招聘していることから、学生にとって身近な視点を持った現職教員からの講話を聴くことになり、近い将来の姿をより明確にすることに役だっている。授業内容については受講生から、今後活かせる充実した内容であると好評である。

〔幼小教職課程〕

幼稚園と小学校での教職経験が豊かな専任教員2名と、教職を総合的な視点から展望する教職専門研究の専任教員1名の計3名で担当する充実した指導体制である。班ごとの討議による4年間のまとめとなるテーマ設定と、パワーポイント作成による全体発表をおこなった後、幼稚園志望と小学校志望が班に分かれて指導案作成と模擬授業をおこなうという実践力に結びつくアクティブ・ラーニング法を活用している。受講生からはグループワーク中心で、楽しみながら理論と実践の能力をさらに高めることができると好評である。

2. 学校ボランティアの取り組み

〔中高教職課程〕

「教職実践演習」の学校現場体験学習で連携している学校を中心に、クラブ活動支援、教科の技能支援、図書室関連の支援等、希望者がボランティア活動を行っている。また、「東邦プロジェクト」では、名古屋いきいき土曜学習会のサポーターとして活動すること、加えて各自治体・各学校での学校インターンシップに参加することを条件とし、グループで学習指導に関する共通課題のレポートを提出し、各グループ活動の発表会に参加するというアクティブ・ラーニングを実践している。このような取り組みは、児童生徒への理

解を深め、児童生徒に主体的な学びを引き出すための指導法やコミュニケーション能力の向上、社会的マナー等を身につけるためにも貴重な経験となり、教員として役立つものと思われる。

3. 「サービス・ラーニング実習」の取り組み

〔幼小教職課程・保育士養成課程〕

子ども発達学科では、2014年に小学校教員養成課程を新たに導入したことを契機に、本学が位置する名東区内の小学校・幼稚園などでの奉仕活動を通じた経験学習を取り入れた。2016年度からは1年生対象の選択科目「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」として授業・単位化に踏み切った。従来の学校ボランティアの学習的側面を強調したのが「サービス・ラーニング」であるが、「プレ教育実習」としての性格も持っており、ほぼ全員の学生が履修している。さまざまな学校・園・その他の施設で各種行事手伝いや子どもたちとの自由な遊びを通じた触れ合いを体験するなかで、教職への意識・意欲を強化し、社会的マナーも身につける効果を確実に上げている。

4. 教職支援センター主催の採用試験対策講座などの取り組み

教職支援センター主催で、採用試験合格を目指す「採用試験対策特別講座」と指導者としての力量を高める「指導力向上特別講座」を開設している。「採用試験対策特別講座」では、筆記試験対策とともに、教育委員会事務局や教員としての豊かな経験を有する実務家教員を講師に招いて、論述試験や個人面接・集団面接等の講座を繰り返し行っている。「指導力向上特別講座」では、名東区内の学校園の行事や授業参観、先進的教育実践校への視察などの現場体験を通し、使命感や責任感を養う一助としている。また、学校現場の講師を勤めている卒業生に対して3年間支援をする講座を年間3回開設している。こうした取り組みの成果が少しずつ教採合格実績に現れている。

また、学生の自主活動を支援することも重要と考え、採用試験対策やイベントの計画立案などで活用できる「TCLルーム」を設置し、その管理・運営を行っている。